

小中一貫教育の充実に向けて

駅家南中学校区では、この夏休み、児童生徒・教職員の交流や小中一貫教育を深めていく取組を実施しました。中学生の補充学習の様子からつまずきを理解し、小学校での授業に活かすことを目的とした『中学校の補充学習』へ小学校の先生の参加、また、『全体研修会』では、改善の方向性を探り、小中一貫教育のカリキュラムの改善を進める話し合いを行いました。

また、小学6年生が中学校の部活動を体験する、『部活動体験』を今年度初めて実施し、中学校区の目指す子ども像である、『学びあい 支え合い 主体的に活動できる児童生徒』の育成をめざし、取り組みを進めています。

中学校1年補充学習

◇7月28日（月）

中学校1年生の補充学習に小学校の先生が参加しました。これは、中学校の学習内容や方法で、何につまづいているのかを小学校の先生も知り、授業内容に活かすことを目的にしています。生徒たちも、懐かしい先生の姿を見て、小学校時代のことを話したり、分からないところを質問したりしていました。

先生からは、生徒の成長を感じるとともに、中学校での学習内容や方法を知り、小学校での授業に活かしていくことを話されていました。



英語と数学の夏休みの課題を中心に学習しています。



小学校の先生から教えてもらっています。
「小学校の時、こんな勉強したよね。」

第3回全体研修会

◇7月29日（火）

今年度3回目の全体研修会は、3小中学校の教員が生徒指導部と学習指導部に分かれ、さらに3つずつの小グループに分かれて協議を行いました。生徒指導部は、「集団づくり」、学習指導部は「学習習慣の確立」の観点から、小中一貫カリキュラムの改善へ向けての協議を行いました。



今年度の「基礎・基本」定着状況調査児童生徒質問紙の結果も資料とし、話し合いました。

協議内容の報告では、生徒指導部から、小学校低学年から与えられた役割を果たすこと、いろいろな場面でのリーダーを経験させたり、リーダーが動くための指導者のサポート方法など、集団づくりにおけるリーダー育成の重要性が報告されました。

また、学習指導部からは、発達段階に応じた意思表示や注目姿勢及びメモを取りたい時など状況に応じた授業システムの応用、子ども同士の関わりを重視した授業規律の確立など、これまでの取組をさらに充実させていくことを確認しました。

今後、推進委員会を中心に小中一貫カリキュラムの改善を進めていきます。



部活動体験

◇8月26日(火)・27日(水)

8月26日(火)27日(水)に、中学校の「部活動」を小学生が「体験」しました。

小学生にとっては、中学校に入学する大きな楽しみの1つであるクラブ活動が体験できると、とても楽しみにしていました。

宜山小学校は、27日が全校登校日だったので26日(火)のみ、駅家小学校は両日ともを第1希望の部活動を体験しました。

小学生が「先輩方の教え方がとても優しく、わかりやすかった。」(吹奏楽部参加児童)「練習がとてもきつかったのですが、こんな練習を毎日している先輩方はすごい。」(サッカー部参加児童)「球の打ち方をやさしく教えていただいたので、一応、球が打てるようになりました。」(卓球部参加児童)と、参加後の感想を述べたように、5月の運動会の行進練習の時と同様、「憧れ」「尊敬」の気持ちが高まったようです。

また、今回の活動のねらいとしては「駅家小と宜山小」との子ども同士の連携もありました。

始めは、コミュニケーションが取れていなかったようですが、「同じクラブを希望した友達」と、少しずつ距離が縮まり、会話ができていく姿も見ることができました。中学校に入学したら、同級生として一緒にクラブ活動ができる日がくるでしょう。

野球部は、先輩と一緒にランニングからスタートしました。



美術部は、イラストを描いて、しおりを作らせてもらいました。



吹奏楽部は、先輩の演奏を聴かせてもらって、希望の楽器の演奏のやり方を教わりました。

